

<タイトル>

体験型野外観察会（ジオツアー） 「茨城の大地の歴史を考える」

平成 23 年 10 月 15 日（土） 8:30～15:30

<趣旨>

本観察会は、茨城県北ジオパーク推進協議会、茨城大学理学部、そして水戸第二高等学校の共催で行ったものです。「ジオパーク」とは、地球科学的に重要な遺産をふくむ自然文化公園のことで、ユネスコの支援によって世界各地に設置されています。「茨城県北地域ジオパーク」は、今年 9 月 5 日にめでたく日本ジオパークの認定を受け、将来の世界ジオパーク認定を目指して益々精力的に活動しているところです（詳しくは、<http://www.ibaraki-geopark.com/>をご覧ください）。本観察会は、茨城県北ジオパークの重要なジオサイトである平磯海岸を実際に歩きながら、地域の方々にジオパークを知ってもらい、さらには地球科学への興味・理解の向上、郷土意識の涵養、そして大学と地域とのコミュニケーションを増進することを目的としています。

現地では、茨城大学理学部の地球環境科学コースの教員 4 名が、7 名の学部・大学院学生の協力を得て、地域の皆様に丁寧な野外指導を行いました。具体的には、ひたちなか市の阿字ヶ浦□平磯海岸と大洗町の大洗海岸で、白亜紀から第四紀にいたる様々な地層や岩石を見て、触って、叩いてもらい、地層とはどんなものか？そしてこれらの観察から読み取れる大地の歴史を感じ取ってもらおうツアーです。

<実施報告>

参加者は、水戸二高の生徒 14 名及び同教員 3 名と、一般参加者 18 名の計 35 名。大型バス 2 台で移動し、8 班体制で、地質観察、岩石種鑑定など様々な実習を行いました。当日はあいにくの雨天だったため、いくつかの地点ではバスの中から車窓に映る景色を眺めながら地質の解説や実習を行いました。ゆったりとしたバスの中で、各々のペースで実習できたため、案内者もきめ細かい指導ができました。昼食時には大洗フェリーターミナルのロビーを借りて、化石標本の展示と観察も行いました。最終見学地点である大洗海岸では雨も上がり、化石やきれいな岩石を見つけて喜ぶ子供たちの顔も見ることができました。本観察会を通して、地域の方々に、野外観察や地質調査の重要性を実感してもらい、県北ジオパークに代表される茨城県の大地の歴史やその意味も理解してもらえたと思います。

また、本観察会を行うにあたっては、事前の下見で安全確認や草払いを行い、当日は茨城大学社会連携課の協力も得て緊急用の車両を 1 台伴走させましたが、特段の怪我や事故もなく終始安全にツアーを遂行することができました。この場を借りて、共催のご協力を頂いた茨城県北ジオパーク推進協議会と水戸第二高等学校、昼食と化石展示の場所を提供して頂いた大洗フェリーターミナル、広報のご協力を頂いた各誌・メディア、そしてご参加頂いた皆様に感謝を申し上げます。

<当日の写真>



写真1. 雨天のため、バスの中から海岸の地質を解説



写真2. お昼休みには、化石標本の展示と観察を行いました



写真3. 最終地点の課題は、五種類の石を探し出すこと



写真4. 大洗海岸にて集合写真

<最後に>

来年も同じ時期に本観察会を予定しております。今年は雨天のために当日キャンセルされた方々が多数おりましたが、その方々の多くは早くも来年の参加を宣言されております。

定員もございますので、参加を希望される方は、毎年9月になりましたら、本学 HP のイベント情報などにご注目下さい。